

茨木市立東奈良小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ② 我が国の言語文化に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ⑤ C読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ② 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ⑥ 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ⑦ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問→3三ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
1一 話し言葉と書き言葉との違いを理解する。
- ・もっとも正答率の低かった設問→3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。
- ・もっとも無解答率の高かった設問→2二 人物像や物語の全体像を具体的に想像する。
3二 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。
- ・もっとも無解答率の低かった設問→1一 話し言葉と書き言葉の違いを理解する。
2一 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。

分析

- ・選択肢から解答を選ぶ設問は、比較的正答率が高く、無解答率も低い。
 - ・条件を満たした文章を書く設問では、無解答率が上がる傾向にある。多くの情報の中から必要なものを選択し、且つその情報を組み込んで自分の考えを文章にすることに課題が見られる。
 - ・問題数が多く、1つの設問の分量も多いため、情報を処理しきれず、読み取ることが困難である児童もいる。
- 以上のことから、本校の児童は既習の漢字は定着しているが、問題の内容や文章を理解したり、物語の全体像を捉えたりする点に苦手意識が高いので、文章の中から必要な情報を読み取る学習活動を繰り返し行い、情報を適切に選び取れる力を高めることが大切である。また、条件をつけた文章を書く力を養うために、必要な条件（文末指定等）作文から取り組んでいくことが有効と考える。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|-----------|-------------|
| ① A数と計算 | 概ね良好な結果であった |
| ② B図形 | 良好な結果であった |
| ③ C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④ Dデータの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もともと正答率の高かった設問→1(1)被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。
4(2)図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解していえる。
- ・もともと正答率の低かった設問→1(4)示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。
2(3)示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。
- ・もともと無解答率の高かった設問→3(4)目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。
- ・もともと無解答率の低かった設問など→1(1) 1(2)二つの数の最小公倍数を求めることができる。

分析

- ・全国平均に比べ、正答率が高く、無解答率が低い。
- ・割合の単元の正答率が低い。
- ・概数や最小公倍数といった既習の語句の意味が理解できていない。
- ・答えの求め方、記述の仕方について例があるもののその例を理解し、求められている数をあてはめ説明することができていない。
- ・基本的な計算はできているが、小設問が増えるごとに正答率が下がる傾向があり、多くの情報を整理していくことに課題がある。

○以上の結果から、本校の児童は基本的な計算力は身につけているが、文章の読み取り、求め方の説明に課題がある。今後は、日常生活の具体的な場面と結びつけて、考えられるよう課題の提示を工夫していく必要がある。また、正答を書くだけでなく、求め方を言葉や式を使って記述する練習も多く取り入れていく。

(領域ごと)

- | | |
|---------|-------------|
| ① エネルギー | 概ね良好な結果であった |
| ② 粒子 | 良好な結果であった |
| ③ 生命 | 概ね良好な結果であった |
| ④ 地球 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問→1(1)観察記録を見つける。
- ・もっとも正答率の低かった設問→3(1)日光を当てることができる人を選ぶ。
- ・もっとも無解答率の高かった設問→2(4)試してみたいことを選び見出された問題を解く。
3(4)問題に対するまとめからその根拠を実験の結果から選ぶ。
4(4)水滴と氷の粒は、何が変わったものかを書く。
- ・もっとも無解答率の低かった設問→1(1)、1(3)、1(4)、2(2)、3(1)、3(2)
全て選択式問題

分析

- ・選択肢のあるものは、無解答率が低い、記述式になると、無解答率が上がる。
- ・短答式の解答率が、高い。
- ・知識として理解できていても、情報を応用することが苦手な児童が多い。
- ・「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域の正答率が高い。

○以上の結果から、本校の児童は実験に使用する器具の名称を理解しており、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができている。

全体を通して、正しい答えを選ぶことができても、その理由について、自分の考えを文字にして表すことに難しさを感じる児童は多いと思われる。今後も実験・観察を通じた体験・経験だけにとどまらず、考察などを文章で表す経験をたくさん積ませる必要がある。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

全体の平均正答率は前年度よりわずかに減少しているが、平均正答率が高い。教科ごとの正答率を見ていくと、国語は上昇しているが、算数では減少している。

全体的な基本的な学習は定着している。無解答率も減少してきたことから、学習したことを活用し、粘り強く問題に取り組もうとする態度が見られる。しかし、文章を読み解く力にまだまだ課題があることがわかる。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力低位層は増加している。学力高位層も増加しており、学力高位層と学力低位層の差が大きい。エンパワー層は、前年度より減少している。これは、基礎基本を徹底した取り組み、児童相互で学び合いながら理解を深めていくという取り組みを続けてきた結果で、エンパワー層の底上げが図られたと考えられる。今後も継続的に取り組み、さらなる工夫・改善を加えていくことで、子ども1人ひとりの学び方に対応できる授業づくりを進めていきたい。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

本校児童の実態を常に把握し、今回の学力・学習状況調査の結果もふまえ、学力向上に取り組んでいく。これまで本校が積み上げてきた取り組みに加え、今回の分析結果にも対応できるように取り組みを進めていく。

- ・校内で学力研究授業を年3回実施し、教職員の授業力向上に努める。また、夏季学力研修やまめちっち研修（校内短時間研修）を数多く実施することで教職員の研鑽を図る。
- ・NIEの取り組みを継続している。取り組みの1つとして、全学年で視写に取り組む。
- ・リーディングスキル事業に取り組んで3年目となる。全学年、全教科で言葉を意識した授業を行っている。
- ・昨年度よりリーディングスキル事業の取り組みの1つとして、5・6年でリーディングスキルテストを行い、1・2年ではMIMに取り組んでいる。
- ・国語教材を利用して、児童の語彙力を高めるために、語彙力を高めることに適した教材をピックアップし、表現力豊かな話し言葉・書き言葉の実践につなげる。実践結果は学力保障部で検証し、有効な指導方法を追及する。
- ・年度当初と10月に「家庭学習・生活習慣の手引き」を発刊し、児童に家庭学習を定着させ、よりよい生活習慣を身につけさせるとともに、家庭への啓発を図る。
- ・学習規律の徹底とユニバーサルデザインに基づき、落ち着いた学習環境づくりを学校全体で構築する。（チャイム着席の徹底、学習用具の点検、話す・聴く姿勢の定着など）
- ・習熟度別授業や分割授業などを柔軟に取り入れ、個に応じた指導体制を工夫する。
- ・授業の流れを示すサインポストを全クラスで使用し、授業の流れを児童に明確に示す。
- ・「声のボリューム」「話し方名人」「聞き方名人」という、「話す・聞く・話し合う」に関わる一定のルールを全学年に統一して示すことで、安心して伝えあう・聞きあう集団づくりに活かす。
給食時間の放送で、各学年の作文を発表する「ならっ子タイム」を実施し、各クラスでもスピーチをする機会を確保することで、児童の表現力・発信力を養う。
- ・朝の読書タイムを週1回実施し、読書の機会を確保する。また、地域の読み聞かせボランティアの方に来ていただくことで読書への興味関心を高める。スクールサポーター（図書担当）が児童の読書意欲が高まるような図書授業の支援や図書室の環境整備を行う。
- ・スクールサポーターなどの学習の支援者の配置は、各学年・各クラスの児童の学習状況に応じて適切に時間割を組み、児童が安心して学べるよう有効活用している。
- ・粘り強く課題に取り組む姿勢を育成し、無解答をなくす声掛けを日々の授業を通して行っている。